

施策評価表(平成20年度の振り返り、総括)

作成日 平成 21 年 4 月 30 日

施策No.	31	施策名	自然環境の保全
主管課名	農林水産課	主管課長名	新浜 義弦
関係課名	建設課		

施策の目的 【対象】	市民 森林	対象指標名	単位	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
		人口	人	46,913	46,459	46,036		
		森林面積	ha	14,526	14,526	14,526	14,526	14,526

施策の目的 【意図】	・森林を保全している。 ・野生生物と共生している。	成果指標名	単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度目標	22年度目標
		①森林整備面積(年間)	ha	257.0	316.0	325.0	345.0	365.0
		②広葉樹林面積	ha	8,710	8,710	8,710	8,710	8,710
		③豊かな自然環境が保たれていると感じている市民の割合	%	37.1	41.5	37.0	40.0	50.0
		④森林の荒廃が進んできていると感じる県民の割合	%	51.7	-	-		45.0

成果指標設定の考え方	<p>①② 豊かな森林がどれくらい維持されているかがわかるので、これを成果指標とした。</p> <p>③ 市民に豊かな自然環境が保たれているかを聞く事で、魚津市の自然環境の保全状態を類推できるので、これを成果指標とした。</p> <p>④ 森林の荒廃の割合をみることで、野生生物が自由に行動できる範囲(生活環境)がどれくらい確保されているか推測できるので、これを成果指標とした。</p>
------------	---

成果指標の把握方法(算定式など)	<p>①② 農林水産課の資料、富山県林業統計書による。</p> <p>③ 企画政策課が実施する市民意識調査により把握</p> <p>④ 水と緑の森づくりに関する県民意識調査による</p>
------------------	---

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	市民	<ul style="list-style-type: none"> ・森林の大切さを学習し、森林を保全するための活動を実践していただく。 ・野生生物との共生のための広葉樹の植林などに積極的に参加していただく。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・森林環境を保全する「森づくり」を市民と共に計画し、取り組む。 ・自然保護に対する意識の啓発を行う。 ・自然保護ボランティアの育成を行う。
	その他	

施策No.	31	施策名	自然環境の保全
20年度の 評価結果	1. 施策の成果水準とその背景(近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること)		
	ア. 成果水準の推移(成果水準がここ数年どのように推移しているかを中心に記述)		
	枝打ち、間伐等の森林整備は、環境対策面からの国の予算付けもあり、整備面積が毎年伸びている。「豊かな自然環境が保たれていると感じる市民の割合」は、ほぼ横ばいの状態である。		
	イ. 近隣他市との比較(成果水準が近隣他市と比較してどうであるかを中心に記述)		
	全国的に森林吸収源対策として森林整備が見直されており、近隣の滑川市、黒部市においても同様に整備を実施している。保全の成果については、地形等の違いもあり比較はできない。		
	ウ. 住民期待水準との比較(成果水準が住民が期待していると思われる水準と比較してどうであるかを中心に記述)		
	管理が放置された森林が目立ち本来の人工林や広葉樹林の機能が失われつつある。森づくり事業の実施により里山の整備が進み、豊かな森林に戻りつつあるが、カシノガキクイムシ病害虫の拡大により、コナラ、ミズナラの立ち枯れが夏場に見られ、自然環境が保たれていると感じる市民の割合が41.5%から37%と4.5%減った。		
	2. 施策の成果実績に結びついているこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括 (ここ数年の間、施策の成果向上に貢献してきた主な事務事業の取り組み内容を中心に記述)		
	[森林保全] ・人工林の間伐、下草刈り、枝打ち、森林整備の為に作業道新設。 ・マツクイムシやカシノガキクイムシ病害虫からの森林枯防止事業。 ・水と緑に恵まれた森づくりとして、里山再生整備事業、風雪被害林や過密人工林の公益的機能向上を図るみどりの森再生事業に取り組む。 [野生生物との共生] ・広葉樹(実のなる木)の植栽。 ・農作物被害防止のための電気柵設置や放置果樹木の伐採、牛やヤギを放牧することで山里と人里を分離する事業。		
	3. 施策の課題認識及び21年度の取り組み状況(予定) (20年度末で残った課題、既に21年度に取り組んでいること、又は取り組むこととしている予定を記述)		
[自然環境保全] ・片貝川県定公園区域内の自然環境保護や洞杉保全のため、案内看板設置や遊歩道整備を行う。 ・片貝川の自然や資源を活かした総合的な地域づくりを進めるための「片貝川流域環境整備事業」に取り組む。 [森林保全] ・引き続き平成18年に策定した「魚津市森づくりプラン」により、人家、耕地周辺の里山林(人工林、広葉樹林、竹林)で地域の合意形成が図られている森林を対象に再生整備を行う。人工林において放置しがたく早急な整備が必要と認められる山林を、広葉樹との混交林化を図る。また、拡大しているカシノガキ病害虫の被害木は、危険性、景観上から伐倒する。 ・都市住民と山村住民と共同で山林の手入れを行う「里山林オーナー制度」の拡充を引き続き実施する。 [野生生物との共生] ・引き続き広葉樹(実のなる木)の植栽を実施する。			

施策の トータル コスト	区 分	単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績
	A. 本施策を構成する事務事業の数	本数	1	9	4		
B. 事業費 (事務事業の事業費合計)	千円	770	32,503	2,245			
C. 事務事業に要する年間総時間	時間	80	2,000	920			
D. 人件費 (C×1時間あたりの平均人件費)	千円	329	8,400	3,869			
E. トータルコスト (B+D)	千円	1,099	40,903	6,114	0	0	
効率性 指 標	対象(受益者)1単位あたり、若しくは市民1人あたりの施策の F. 事業費 (定義式 : B/人口)	円	16	696	49		
	同上 G. 人件費 (定義式 : D/人口)	円	7	180	84		
	同上 H. トータルコスト (定義式 : E/人口)	円	24	875	133		